

スクミリンゴガイの発生が拡大しています。

－発生状況を確認し、防除対策を徹底しましょう！－

1 発生状況等

スクミリンゴガイ（俗称：ジャンボタニシ）（写真1～3）は、淡水棲の巻貝で、生育初期のイネ等を食害し、移植直後の苗が食害されると欠株となる場合があります。近年、県南部の足利市、小山市、野木町で本貝の発生を確認していましたが、令和7（2025）年6月に、新たに栃木市（西方町）でも発生が確認されました。

今後、更なる発生地域の拡大や、被害の発生が懸念されます。被害を防ぐため、また、ほ場をよく確認し、早期発見・早期防除に努めましょう。



写真1 イネを食害する
スクミリンゴガイ



写真2 イネに産付けられた
卵塊



写真3 他のタニシ類との比較

2 防除対策

○移植前

- (1) 取水口・排水口にネットや金網を設置し、本貝の侵入を防止する。
- (2) 水路の壁等に産み付けられた卵塊を殺卵する。

○移植時・移植後

- (1) 浅水管理により摂食行動を抑制する（水深を4cm（理想は1cm）以下に維持）。
- (2) 貝や卵塊は見つけ次第捕殺する。
- (3) 表1を参考に薬剤散布を行う。

○収穫後・冬期

- (1) 厳寒期前の耕うんにより本貝を物理的に破壊するとともに寒風にさらす。
- (2) 本貝の移出入を防ぐため、トラクターの爪やアタッチメント等を洗浄する。

3 注意事項

- (1) 本貝が水田や用水路等に侵入すると根絶は非常に困難であるため、除草を目的とする放飼等、未発生地域への人為的な持ち込みは行わないこと。
- (2) 本貝には人体に有害な寄生虫（広東住血線虫）がいる場合があります、卵にはPV2という神経毒が含まれるため、素手では扱わず、ゴム手袋やゴミ拾い用トングなどを使用する。素手で触った場合には、石けんでよく手を洗浄する。
- (3) 詳細は[スクミリンゴガイ防除対策マニュアル（移植水稻）](#)（農林水産省消費・安全局植防課）等を参照。

表1 スクミリンゴガイの主な防除薬剤（令和7（2025）年6月19日現在）

農薬の名称	農薬の種類	使用方法	希釈倍数	使用時期	使用回数
スクミノン	メタアルデヒド 粒剤	散布又は無人航 空機による散布	1～4kg/10a	収穫 60 日前まで	2 回以内
スクミンベイト3	磷酸第二鉄粒剤	散布	2～8kg/10a	発生時	-
スクミンブルー	磷酸第二鉄粒剤	散布	2～8kg/10a	発生時	-

注1：必ず農薬容器のラベルをよく読み、使用方法・使用上の注意事項を守る。

詳細は、農業総合研究センター 防除課（Tel. 028-665-1244）までお問合せ下さい。
 病害虫情報発表のお知らせは「栃木県農政部 X(@tochigi_nousei)」、
 農業総合研究センターホームページ（<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>）
 でもご覧いただけます。



～栃木県からのお知らせです～

6月～8月は、「栃木県農薬危害防止運動」の実施期間です。



- ① 安全作業の第一歩！ 農薬散布時の身支度は万全に！
- ② いつものチェック！ 農薬使用の際は、ラベルをよく読み正しく使いましょう！
- ③ 農薬散布のその前に！ 風量や風向きに注意して、飛散防止に努めましょう！
- ④ 周辺への配慮！ 住宅地等でやむを得ず農薬を使用する際は十分に配慮しましょう！
- ⑤ 農薬散布のその後に！ 防除器具の洗浄も欠かさずに行いましょう！



農作業中の熱中症に注意しましょう

- ・こまめな休憩、水分・塩分補給を行いましょう
- ・単独作業は避け、一人作業の場合は携帯電話を持ちましょう
- ・体調不良を感じたら、すぐに作業を中断し、涼しいところで休みましょう

